

■ 会長の時間

伊達 紫 会長



会長挨拶

皆さん、こんにちは

前回まで 2 回に渡り、「日本人ロータリアン第 1 号、福島喜三次氏」について「ロータリアンの散歩道」からの引用を用いてお話ししてきました。ロータリーの創始者、ポール・ハリス、米山梅吉、福島喜三次は、凶らずも 1946 年から 1947 年にかけて逝去されており、彼らが活躍した第 2 次世界大戦前までが国際ロータリーの草創期であったというように締めくくりました。

今日は、1936 年から 1945 年の終戦までの日本のロータリーの苦悩の時代について少し触れたいと思います。1935 年 2 月、ポール・ハリスが初来日するのですが、翌年には 226 事件が、翌々年には中国盧溝橋での衝突を機に、日中戦争が勃発します。その頃から、アメリカに本部のある「日本のロータリークラブ」が、「反戦的」、「亡国的」との批判にさらされ始めたのは想像に難くありません。前回もお話ししましたように、米山梅吉や地区幹事であった芝染太郎は、再三、特高警察から取調べを受けています。

こうした疑義を晴らすために、国際ロータリーの中央集権から離れて、日本と満州だけの「日満ロータリー連合会」の設立を目指す方向に舵が切られました。東京 RC の会員で、英語の達人とも呼ばれた芝染太郎氏は、1939 年(昭和 14 年)6 月にアメリカのクリーブランド国際大会で、この「日満ロータリー連合会」の設立を訴え、紆余曲折あったものの同年 7 月に国際ロータリーの承認が得られ同連合会が誕生することになりました。日本のロータリーを残すためには、この方法しかなかったのです。

連合会の第 1 回年次大会は、1940 年(昭和 15 年)5 月に横浜で開かれたそうで、ロータリー綱領の改訂、皇軍に対する感謝、傷病兵への慰問などが決議されました。「国旗掲揚」と「国歌斉唱」の習慣が生まれたのもこの頃だと言われています。

しかし、日満ロータリー連合会長の米山氏は再三、軍当局より呼び出され、例会には憲兵や特高がしばしば臨席、また、スピーチもあらかじめ警察に届けることが義務付けられたそうです。そしてついに、「ロータリーの存在は大日本帝国に対する反逆である」という最後通告に至り、1940 年 8 月 8 日に静岡 RC が解散、続いて大阪、岡山、京都、神戸、今治、帯広 RC が次々と解散し、最後まで踏みとどまっていた東京 RC も 1 ヶ月後の 9 月 11 日の例会で解散を決議しました。創始者である米山梅吉氏は、最後の挨拶で「奉仕の理想はあくまでも堅持したい」と語ったそうです。東京 RC 設立からちょうど 20 年目の出来事でした。

ここで少し趣を変えて、ロータリーソング「奉仕の理想」について触れたいと思います。この「奉仕の理想」は日本オリジナルのロータリーソングであることをご存知でしたか？歌詞の冒頭にご注目ください、「奉仕の理想に集いし友よ、御国に捧げん我らの業」ここのある「御国」は「世界」でした。この歌が生まれたのはまさに戦時中であり、「世界」を「御国」に変えることを半ば強制されたとのこと。この曲の作詞者である京都 RC の前田和一郎氏は、逝去される間に、「もし出来ることなら、いつの日か原詩の「世界に捧げる」に戻してほしい」と遺言されたそうです。

この件に関して、京都 RC は、このロータリーソングは日本共有の財産であることから、歌詞の変更等には言及しない、とのことで、クラブ・地区のご判断で…ということらしいです。

今回、ロータリアンの散歩道を散歩するにあたり、ロータリーソングの中にも、さまざまな歴史背景のあることを知ることができました。皆さんの豆知識になれば幸いです。

■ 入会式



久保昌広さんがご入会されました。
よろしくお祈りします。

■ ポール・ハリス・フェロー認証



石川千佳子会員が
ポール・ハリス・フェ
ローの表彰を受けました。
ありがとうございました。

■ 幹事報告

羽佐間 尚久 幹事



1. 都城ロータリークラブ創立 70 周年記念式典が無事行われたことへのお礼の文章が届いております。
2. 串良ロータリークラブより例会場の変更の案内が届いております。

3. 月信 10 月号が届いておりますので読みたい方は、事務局までお問い合わせください。

4. 第 140 回例会 募金報告

ロータリー財団 3,750 円
米山奨学金 4,053 円

皆様、ご協力ありがとうございました。

以上です。

■ 委員会報告

◆ 出席報告

会員数 37 名
出席者数 16 名
欠席者数 21 名
出席率 56.76%

第 140 回例会修正

会員数 36 名
出席者 19 名
メイクアップ 2 名
修正出席者数 21 名
修正出席率 58.33%

■ 清花ボックス報告

勢井 由美子会員

「石川会員、ポール・ハリス・フェローのご寄附、本当にありがとうございます。と同時に、そのお心に感謝しています。」

■ 卓話



吉田 博文会員

1. 音声入力と AI 技術の活用

〈電子カルテの革新〉

担当者が、音声入力とカスタム GPT を利用して電子カルテを効率的に更新する取り組みを紹介。患者との対話をリアルタイムでテキスト化し、カルテに自動で記録するシステムを導入。新しいアプローチにより、医療現場での記録作業が効率化され、作業負担が軽減されていることを強調しました。

このシステムを用いたデモンストレーションもインターネット経由で提供できるとのことです。

2. AI システムを自身で開発、導入

患者との対話内容を反映する機能を備えています。お薬手帳の内容から自動で処方薬や指導内容が記録され、作業効率が向上。特に医療の現場での有用性が確認されていると報告されました。

3. 医療業務の効率化と AI の役割

〈業務の効率化と本来業務への集中〉

医療現場での記録作業が煩雑化する中、AI 技術によって本来の患者対応業務に集中できるようになったことが述べ

られました。音声入力によりキーボード操作が不要となり、ハンズフリーでカルテ入力が可能になっています。

特に、患者とのやり取りの記録やフィードバック作業が AI によって簡略化され、効率化が進んでいると説明がありました。

4. 人材育成と次年度の取り組み

現在の人材不足に対応するため、医療事務のスキル向上と育成に注力し、来年度から南九州大学で非常勤講師として教育を担当予定であることが報告されました。人材育成により、薬剤師の業務効率が高まり、現場での負担軽減が期待されています。

5. AI 技術の応用範囲と課題

〈医療・介護外の応用〉

この音声認識や文字起こし技術は医療や介護以外にも活用できると考えられています。例えば、行政や地域社会における会議の録音を基にした報告書の自動作成や業務報告書の作成など、幅広い分野で効率化を実現可能であると述べられました。

6. 音声認識の精度と方言の課題

音声認識精度向上のため、患者とのやり取りを復唱して確認する手法を採用。例えば、患者が「腰が痛い」と言った場合に「腰が痛いんですね」と確認することで認識の精度が上がるという説明されました。ただし、AI が方言を完全に理解するのは難しい点が課題として指摘されています。

7. AI に対する見解と未来の展望

〈AI に対する捉え方と社会貢献〉

AI がメディアで悪用される例が取り上げられがちな現状について、鉄人 28 号のように「AI を良い方向で活用したい」との考えが示されました。また、AI 技術が負担軽減や業務効率化に役立つとの観点から、対人業務での有用性を強調する意見もありました。

8. 将来の目標と課題

高齢化社会における人手不足が大きな課題となる中、AI 技術を活用して少しでも業務を効率化し、社会に貢献していきたいと強調されました。資金や人手の不足といった課題を乗り越えながら、技術をさらに発展させることで、より多くの人々の生活に役立つシステムの開発を目指しています。